

東北食農ネットワーク

“T-FAN”

東北ハイテク研究会



No.13 (2017.11)

東北食農ネットワーク” T-FAN” 第13号をお届けします。

第13号では、平成28年7月12日に帰還困難区域を除く避難指示区域が解除されました福島県浜取り地域の農業復興に関わる東北農研の研究成果の現地へのPRと、福島県農業の復興に関して次年度の公募が予定されている研究プロジェクトへの応募内容を詰めるために公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）の支援を受けて行った事前調査の内容についてお知らせします。

東北農研・大谷領域長による水稲乾田直播技術の講演

福島県では、津波被災地域において100ha規模の大規模水田作経営を育成するため、省力・低コスト及びICT活用技術に積極的に取り組んでいます。そのため、宮城県の津波被災地域の復興に貢献した東北農研が開発した乾田直播技術に注目し、福島県での導入可能性を評価するため、東北農研の大谷領域長による講演、相双農林事務所管内の（有）高ライスセンターでのV溝乾田直播の取り組み、クボタのKSAS利用による圃場管理、作業記録、収量コンバインの効果の説明と実証圃場でのデモンストレーションを行った。

大谷領域長は、「プラウ耕グレーンドリル乾田直播の宮城県での実証と普及状況」について講演を行った。

開催日時：2017年9月15日

開催場所：南相馬市石神生涯学習センター

参集範囲と人数：生産者・関係機関職員40名（生産者10名）



東北農研大谷領域長による講演と収量コンバインの刈り取り風景

福島農業復興に関わる研究ニーズと研究 内容検討のための被災地の担い手調査

9月16日には、2018年度に農林水産省から福島県農業の復興に関して公募が予定されている次期先端研究プロジェクトへの応募を目指して JATAFF の事業化可能性調査予算を利用して研究ニーズと研究内容検討のための調査を行った。

調査参加者及び調査対象経営体は、以下の通りである。

<調査参加者>

東北農研：大谷生産基盤領域長、長坂作業技術グループ長、関矢栽培技術グループ上級研究員、
安江農業経営グループ研究員

東北ハイテク研：門間事務局長

福島農総センター企画経営部：常磐科長

<調査対象経営と概要>

○懸の森みどりファーム、相馬牧場

- ・いずれの経営体も震災で乳牛を置き去りにして避難。避難指示区域解除後は、コントラクターとして飼料生産に特化した経営を展開。



定置型コンビベアラ

出所：大谷領域長撮影



フォレンジハーベスタ



真空播種機

○飯崎生産組合

- ・常磐科長の案内で大豆畑を見る。

○相馬市矢沢干拓基盤整備地区

- ・相馬市松村浩安氏の案内で基盤整備地区の水稻作付け状況を視察

○相馬市（合同会社）飯豊ファーム

- 門間事務局長が東京農大時代に復興支援した経営体で東北農研方式のグレーンドリル乾田直播栽培を導入している。



飯豊ファーム乾直圃場

出所：大谷領域長撮影



グレーンドリル



直装式レーザー均平機